

令和元年度・事業報告書

社会福祉法人 コージー南国

1、令和1年度経営状況について

令和元年度も引き続き経営の安定と充実化に努めた。令和元年度経営目標として令和元年度後期に、利用定員を生活介護15名から20名・就労継続支援B型15名から20名に定員増を図る計画については、令和元年10月1日付で生活介護20名、就労継続支援B型20名の計40名の認可を得ることが出来た。

令和2年3月末現在、生活介護利用登録者数18名、就労継続支援B型14名と前年度から生活介護2名、就労継続支援B型2名、利用増を図ることができた。

(表1) 令和元年度月別実利用者推移は以下のとおり(上段H30・下段R1)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
生 介	15	15	15	16	17	17	17	17	17	16	16	16
	16	16	16	16	16	16	16	17	17	17	17	18
対 比	1	1	1	0	-1	-1	-1	0	0	1	1	2
就 B	10	10	11	11	11	11	11	11	11	12	12	13
	13	13	13	13	13	13	14	14	14	14	14	14
対 比	3	3	2	2	2	2	3	3	3	2	2	1

H30・R1年度の生活介護・就労B型の月別延べ利用者数は以下のとおり

(表3) H30年度・R1年度、生活介護・就労B月別延利用日数

生 活 介 護	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
H30	277	231	319	302	300	326	269	317	300	213	321	274
R1	304	304	293	316	278	273	321	305	275	271	249	306
対 前 年 比	27	73	-26	14	-22	-53	52	-12	-25	58	-72	32
就 労 B 型	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
H30	172	137	192	154	149	165	152	180	163	135	196	199
R1	202	203	197	209	181	180	227	222	217	194	186	234
対 前 年 比	30	66	5	55	32	15	75	42	54	59	-10	35

H30年度・R1年度の生活介護の利用者延べ利用日数、対前年度比はプラス46日と微増であったが、就労B型は利用者が対前年度プラス458日と大幅に増えた。

2 事業収支

(表2) 利用増に伴う令和1年度の事業収支は以下のとおり、

	事業収入	事業支出	収支差額
4月	3,950,021	2,481,833	1,468,188
5月	4,045,593	3,311,231	734,362
6月	3,871,083	5,191,514	-1,320,431
7月	4,255,964	3,010,399	1,245,565
8月	3,655,680	3,451,160	204,520
9月	3,587,417	3,313,879	273,538
10月	4,203,845	3,069,597	1,134,248
11月	4,071,610	3,027,567	1,044,043
12月	4,014,770	5,838,185	-1,823,415
1月	3,538,130	3,101,334	436,796
2月	3,377,510	4,064,886	-687,376
3月	4,231,214	4,082,164	149,050
合計	46,802,837	43,943,749	2,859,088

上記、表2のように事業収支差額は2,859,088円であった。

8・9月の収支差額が他の月と比較して低いのは、この8・9月と生活介護の利用者3名体調不良等により休みが続いたこと。また、ゆずの不作等により就労支援事業収入が極端に下がったことも影響している。

また2月の収支差額のマイナスは、休日数を除く営業日数が18日と少なかったこと、1月に常勤1名パート職員2名雇用したことにより、人件費が上昇したことによる。

3 職員増と人件費

令和1年度は、生活介護の多動性障害やパニックを起こす利用者の増加に伴う支援スタッフの業務負担軽減および後期の定員増への対応のため、支援員および送迎運転手の増員を図ったため対前年度人件費比率がアップした。

(表3) 常勤・パート職員数対前年度対比(生活支援員・職業指導員)

年度	常勤職員数	パート職員数	送迎運転手	合計
H30	4	4	1	9
R1	5	6	2	13

(表4) 常勤・パート職員人件費対前年度対比(生活支援員・職業指導員)

年 度	給与(常勤)	賃金(パート)	賞 与	合 計
H 3 0	16,398,221	2,880,187	3,313,802	22,592,210
R 1	17,319,516	6,515,215	4,727,504	28,562,235

多動性障害やパニックを起こす利用者の場合、ほぼ1対1の支援が求められ、パニックを起こした時は1対1でも対応困難で、1対2～3名の職員での対応をせざるを得ず配置基準ぎりぎりの職員数では、利用者の安全確保と充実した支援は厳しく、職員の補充は必要であった。

今後の経営面の課題は、利用者の主体性と個性を尊重した支援の保障と、それに伴う人件費の上昇とのバランスを如何に取るかである。相矛盾した課題ではあるが、可能な限り充実した支援体制を保ちながら、人件費とのバランスを保ちたい。

ロ、令和元年度の職員配置体制は以下のとおり

(表5) 令和元年度職員配置体制

多機能型 職 種	生 活 介 護		就 労 継 続 支 援 B 型		配置基準
	常 勤	非常勤	常 勤	非常勤	
管理者		1(兼)		1(兼)	1
サービス管理責任者	1(兼)		1(兼)		1
生活支援員	3	4	—	2(1兼)	4
職業指導員			2	—	1
医 師		1			1
看護師		1			1
事務員	1	1		1(兼)	
送迎運転手		1		1	
合 計	5(兼1)	9(兼1)	3(兼1)	5(兼2)	

4、運営報告について

令和元年度も、個別支援計画に基づく支援サービス・担当者会議・モニタリングの実践に努めた。あくまで支援業務は個別支援計画に基づいて行わなければならないこと。評価の見直し(モニタリング)・利用者ご本人と家族への説明と同意(イン

フォームドコンセント)が如何に重要であるか、こうした制度に基づいて行わなければならないこと(コンプライアンス)を職員研修においても取り上げ、周知を図った。

また、前年度から継続して利用者主体の意思決定の尊重に基き、生活介護、就労Bともに、それぞれのコミュニケーション特性に配慮しながら、自分の意見思い考えを出して伝えることが出来るように努めた。

最初は職員に促されて意見を出していたのが、回を重ねるごとに自ら進んで手を上げ、意見を表明する利用者が増加してきている。また、前年度に続き利用者間の協力支援関係も定着してきている。

このように利用者自らが、自分たちの思いや意思を表明し行動に移し、また職員や周りの利用者との関係性を通して、周りへの依存性を減らし、自ら自己決定することを、今後も生活のあらゆる場面で普通に当たり前になるよう、自ら判断し行動することにつなげたい。

5、事業活動報告

① 生活介護

生活介護の週間予定は以下のとおり

(表7) 生活介護週間予定表

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午 前	散歩活動 作業活動	散歩活動 作業活動	散歩活動 作業活動	散歩活動 作業活動	散歩活動 作業活動
午 後	カラオケ	あくた 運動レク	読み聞かせ	創作活動	喫 茶 コーギー

イ、作業活動

生活介護の作業活動は、①缶回収・広報活動、②アルミ缶とスチール缶の仕分け・空き缶のプルタブはずし、③手袋の整形・袋入れ作業を行っている。

缶作業はしっかり定着し、缶の回収およびプルタブ外しはほぼ全員で取り組むことができています。外したプルタブは南国市社協のプルタブを車椅子に換える活動に協力提供している。利用者の日々の缶作業が、ささやかではあるが福祉貢献に役立つ

っている。

手袋作業は、これまでは手袋の受注数も多く袋詰めができていたが、利用者の状態変化や袋詰めできる利用者が3名から1名に減ったこともあり、指定納入期日までの納入に追われ、午後の余暇活動を手袋作業に振り替えるなど、利用者と職員が一体となって取り組んだ。

また、就労Bの取り組んでいる割り箸入れやのし袋作業に、生活介護の主に年配の利用者4～5名が試み的に取り組んでみた。日を迫うごとに200枚、300枚、400枚と出来上がり品の数が増え、本人たちの意欲と自信につながっており、かつて就労系事業所でやっていた何人かは働く意欲を取り戻してきている。

ロ、散歩活動

前年に引き続き、生活介護は午前利用者の体力低下防止、健康維持増進を目的として散歩活動に取り組んだ。昨年からの継続で、長距離、中距離、室内歩行組に分かれて取り組んだ。月水金は、施設北側の農道、水木は施設建物の周回歩行も取り入れている。少しでも早く行こうとする者、時間に我関せず、ゆっくりのんびり準備する者、また、利用者1人1人、準備にかかる時間や歩行レベルに開きがあり、毎日あたふたとした朝の散歩活動となっている。

ハ、午後の余暇活動

午後の余暇活動は、月曜のカラオケと水曜の本の読み聞かせは自由参加、火曜の「あくた」は、全員参加で体を動かす。木曜日は隔週でレクレーションと創作活動。今年の創作活動は、今年こそスピリットアート展に共同作品で入選を果たそうと、共同作品「ひまわり」に取り組み、見事に入選を果たすことが出来た。

金曜日は、一週間、作業や余暇活動に取り組んだお疲れ様、また来週も頑張ろうとの慰労も兼ね、利用者がウェイトレス・ウェイトレスとなって注文取り、飲み物のテーブルへの運ぶ作業も、すっかり板についてきている。

月の最終金曜日は、職員がウェイトレス・ウェイトレスとなって、逆に利用者におもてなしをしている。喫茶コーナーは利用者の大きな楽しみとなっている。

令和元年度生活介護の月別利用者推移は次のとおり

(表8) 生活介護利用者H30・R1年度利用者推移対比表

生活介護	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
H30	15	15	15	16	17	17	17	17	17	16	16	16
R1	16	16	16	16	16	16	16	17	17	17	17	17

上記のとおり、平成30年度の利用者は平均16.1名、令和1年度・平均利用者16.4名でほぼ横這いで推移した。

令和1年度生活介護の利用者支援区分は次のとおり

(表9) 令和1年度、生活介護利用者支援区分

H30	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
人数	0名	2名	6名	7名	2名

利用者によって、その時期その時期によって意思表示状態や行動状態に変動が見られ、改善が見られていても再び低下することもあるれば、逆にレベルが低下していても改善されることもある。可能な限り安定した生活レベルが保たれるよう、今後も支援に努めたい。

令和1年度の生活介護の作業活動による収入および工賃は以下のとおり

(表10) 令和1年度・生活介護月別作業収入・作業工賃

生活介護	手袋	空き缶	のし袋	Tシャツ	封筒入れ	作業収入計	作業工賃計
4月	6,967	3,600				10,567	30,500
5月	9,083	6,270				15,353	25,800
6月	13,357	9,312				22,669	33,800
7月	12,970	8,290			5,000	26,260	28,700
8月	9,450	3,726	815			13,991	30,800
9月	7,862	6,554	1,445			15,861	32,500
10月	6,603	4,946	1,780			13,329	25,800
11月	4,278	4,788	696	3,488		13,250	32,900
12月	4,401	6,998	658	3,924		15,981	56,200
1月	3,488	-	812			4,300	21,300

2月	5,457	4,980	541			10,978	30,800
3月	7,367	5,520	1,120			14,007	27,000
合計	91,283	64,984	7,867	7,412	5,000	176,546	376,100

6、就労継続支援B型

令和1年度就労継続支援B型の週間予定は以下のとおり

(表7) 就労継続支援B型週間予定表

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	ゆずトリミング なす袋詰め のし袋袋入れ	ゆずトリミング なす袋詰め のし袋袋入れ	ゆずトリミング なす袋詰め のし袋袋入れ	ゆずトリミング なす袋詰め のし袋袋入れ	ゆずトリミング なす袋詰め のし袋袋入れ
午後	ゆずトリミング なす袋詰め のし袋袋入れ	ゆずトリミング なす袋詰め のし袋袋入れ	ゆずトリミング なす袋詰め のし袋袋入れ	ゆずトリミング なす袋詰め のし袋袋入れ	ゆずトリミング なす袋詰め のし袋袋入れ

H30年度、R1年度年度の就労B型の月別利用者推移は以下のとおり

(表8) H30年度、R1年度年度、就労継続支援B型月別利用者推移

就労B型	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
H30	10	10	11	11	11	11	11	11	11	12	12	13
R1	13	13	13	13	13	13	14	14	14	14	14	15

平成30年度は年度初めに10名であったが、年度末には13名と3名増となった。
令和1年度は、年度初め13名、年度末の3月には15名と2名増となった。

令和1年度就労継続支援B型月別作業収入と作業工賃は以下のとおり

(表9) 令和1年度・就労継続支援B型月別作業収入・作業工賃

就労B型	のし袋袋詰め	なす袋詰め	ゆずトリミング	割り箸	空き缶プレス	手芸	作業収入	作業工賃
4月		34,589	72,855	15,498	14,400		137,342	167,454
5月		43,617	60,643		16,770		121,030	132,715
6月		14,887	82,429	6,804	37,244		141,364	176,439
7月	10,644		82,539	6,048	32,328		131,559	155,486
8月	7,339		41,730	8,694	14,078	3,100	74,941	249,371
9月	7,911		25,704	6,804	26,213		66,632	171,511
10月	13,716		23,386	21,889	18,884	4,400	82,275	149,160

11月	16,749		76,692	18,865	18,102	7,300	137,708	180,400
12月	10,078		72,221		27,539		109,838	286,359
1月	11,460		63,690			3,200	78,350	129,187
2月	9,939		72,320	9,625	19,920		111,804	177,398
3月	15,097	11,319	102,597	6,160	20,865	3,400	159,438	160,841
合計	102,933	104,412	778,806	100,387	246,343	21,400	1,354,281	2,136,371

令和1年度の就労Bの作業収入は、ゆずが8・9・10月と不作のため、ゆず以外のレモン、せとかといった柑橘に変わったが、やはりレモンも不作で不良品が多く、使用品が少なかったため、ゆずの作業収入がこの3ヶ月間大きく落ち込んだ。11月に入りどうにか取り戻してきた。

また、なすも7月からシーズンオフとなるため、それに代わる作業を捜していたところ、のし袋の袋入れ作業の内職の募集があり連絡し、なんとか協力してくれることとなった。内職仕事のため作業単価は低いですが、何もないよりはましと捉え、7月から取り組み始めた。今は就労Bだけでなく、生活介護の年配の方で、かつて就労系の事業所経験のある利用者に試み的にやらせたところ、思った以上に集中して、終了時間がきてもやめずに区切りの良いところまで取り組んでいる。

7、日中一時支援事業

令和1年度の日中一時支援事業の利用者は3名のみに留まった。

利用日数は、計13日に留まった。

(表10) 令和1年度日中一時支援事業月別利用者推移

R 1	7月	8月	3月
利用数	1人	1人	1人
日数	5日	4日	4日

8、実習生受入れ状況

(表11) 令和1年度の実習受入れ状況は以下のとおり

受入れ期間	受入れ日数	受入れ人数	実習依頼先
令和1年5月16日～5月29日	10日	3名	山田特別支援学校
令和1年6月10日～6月21日	10日	1名	〃
令和1年10月15日～10月25日	10日	1名	〃
令和1年年11月5日～11月15日	10日	2名	〃

令和1年度・合計	40日	7名	(延べ日数・人数)
----------	-----	----	-----------

令和1年度は、前年に比べ少なく、延べ日数は40日、人数は7名であった。この実習生のうち、令和2年度から1名が生活介護、あと1名が就労継続支援B型に新規利用となった。

9、職員研修

イ、施設内研修

令和1年度は、施設内研修3回、初回は5月1日に生活介護担当支援員の和田まゆ職員が、日常的に寡黙で自ら意思表示の乏しい2名の利用者の性格特性を把握、分析し、関わる際に自ら課題意識を持って関わっていることの実践報告をしてもらった。

何よりも本人に寄り添い、本人の思いをくみ取って関わっていくことの重要性をスタッフ一同再認識することができる研修となった

2回目は、当コープの新たな理事に就任してもらった、南海学園の人材開発室市川憲文氏を講師に迎え「障害福祉施策について」のテーマで、パワーポイントを使って、障害者福祉が歴史的にどのように変わっていったか、その時代時代の背景を分析しながら、わかり易く説明し、現在の支援という考え方の意味と意義を認識させてくれる講演であった。

3回目は、長谷川所長が「利用者との関わり方の自己検証」のテーマで、スタッフ一人一人が、利用者にとどのように日々関わっているか意見発表してもらい、互いに検証し合い、関わり方の重要点について共通認識することができた。

令和1年度の施設外研修は、5月30～31日と2日間、県立療育福祉センター主催の発達障害セミナー「見てわかる支援と環境づくり」に3名参加、9月9日の「福祉サービス苦情解決セミナー」に1名参加、9月17～18日と県障害福祉課主催の「強度行動障害支援者養成研修」に1名参加、

10月28日に発達障害に関するセミナー「場面緘黙の理解と対応」に2名参加、2月29日に高知大学付属特別支援学校教諭：二宮 啓氏の講演に2名参加予定であったが、コロナ感染防止対策のため中止となる。

(表12) 令和1年度の研修は以下のとおり

研修実施日	内部研修	外部研修
5月1日 講師(和田まゆ)	課題研修(意思表示の乏しい利用者との関わり方)	
5月30・31日	参加者 30日: 為近美奈	主催: 県立療育福祉センター 発達障害セミナー「見てわかる

	31日：森本紫乃・寺田珠久	支援と環境づくり」
7月24日	講師（南海学園：市川憲文氏 テーマ「障害福祉施策について	
9月9日 県立福祉交流プラザ	活動発表 オイコニア：中平美佳氏 豊壽園：宮口雅吉氏	福祉サービス苦情解決セミナー 講演「相談援助の視点」 四国学院大：西谷清美教授
9月17～18日	参加者 寺田珠久	強度行動障害支援者養成研修 主催：県障害福祉課 「福祉交流プラザ」
9月18日 講師： 所長 長谷川憲隆	「利用者との関わりの 自己検証」 参加者：全職員	
10月28日 (水)	{発達障害に関するセミナー} 参加者：宗石慶子 〃：長谷川真弓美	「場面緘黙の理解と対応」 講師「長野大学社会福祉学部 高木潤野准教授
2月29日 コロナ感染予防の ため中止となる	参加者：宗石慶子 〃：正木一考 〃：長谷川真弓美	{発達障害の理解と支援} 講師：高知大学付属特別支援学 校教諭：二宮 啓氏

10、防災訓練

令和1年度防災訓練は、地震訓練2回、風水害訓練2回実施した。
久礼田地域は津波浸水区域外であるが、コージー東側約300mを流れる領石川が、最近の予想を超える大雨が降った場合、コージーの南約200mが本流の国分川合流地点のため、本流の増水時は領石川が流れ込まなくなり、領石川の氾濫の危険性が高まる。従って、風水害避難訓練を重点的に行う。

(表13) 令和1年度防災訓練は以下のとおり

訓練実施日	訓練内容	参加者数
4月26日 10:30～11:00	地震・火災避難訓練 (一時避難机下、初期消火・ 二次避難屋外)	利用者：27名 職員：11名 その他： 名
6月27日 10:30～11:00	風水害避難訓練 (屋内2階へ避難)	利用者：22名 職員：10名 その他： 名
8月 6日 11:00～10:00	地震避難訓練 (屋外へ避難)	利用者：22名 職員：10名
11月12日 10:00～10:30	風水害避難訓練 (屋内2階へ避難)	利用者：25名 職員：11名 その他： 名

1 1、次年度に向けた課題

令和1年度は、利用者増、送迎便の増への対応のため、パートスタッフの増員を図った結果、前年度に比べ人件費が上昇した。支援体制の充実と支援スタッフの業務過多によるストレス防止ひいては離職防止のため、やむを得ないと考える。

平成30年度に新規に受け入れた生活介護の行動障害とパニックのある利用者も利用開始当初から比べ、パニックは明らかに減少してきている。まだ常に一人である場面が多いが、わずかずつスタッフや他の利用者との関わりの場面が見られるようになってきている。

ただ、パニック時の多動行動や奇声にストレスを感じている利用者もあり、特に年配の利用者から、そのような訴えが出ている。元々コージーは、授産施設として作業活動中心のワンフロア構造のため、部屋の区切りがない。できれば改造したいが、構造的にも部屋の間仕切りが出来づらく、何らかの対応を考えたい。

就労継続支援B型は、2年前から利用者は倍以上になり3月末現在で14名、4月にさらに1名利用開始のため、令和2年度は就労Bも15名となる。

これまで作業種目の充実化を図ってきたが、作業をこなす利用者が不足のため、思う以上に作業量を上げることが出来なかったが、今後は作業量アップが期待できる。

また、この令和1年度は、気候変動による柑橘類の不作により、ゆずトリミング作業収入が3ヶ月にわたり大きく減少した。加えて、ナス作業も例年は夏場の7～9月くらいが休止期で、10月頃から再開する予定が青果会社の都合により、今年の2月まで8ヶ月間ナス作業が中断した。なんとか安定した仕事の供給を期待したい。